

「ヒューマン・セクソロジー」って、ご存じでしたか？

未成年の人工妊娠中絶が日に95件の調査結果や恋の綻れからの悲惨な事件報道に接し、今時の若者の「性と人間関係」の意識はどういうものかと日頃気になっていた。

先日、25年間高校で保健体育、また、総合学習で「人間と性」の授業を担当し、高校退職後も一橋大、津田塾大等の各大学で「ヒューマン・セクソロジー」の講義を行っている先生が、講義内容を纏めて「愛の人間関係学」の入門書というべき、書籍：「恋人とつくる明日－育て合う安心と信頼のための9章－」が出版されたとの新聞記事を目にし、早速購読した。

本書には、出席調べを兼ねてのその日の講義を聴いての真摯な感想文がたくさん引用されているので、今時の学生の性に関わる実態、意識が垣間見ることが出来た。

著者は、長年の「ヒューマン・セクソロジー」の講義で多くの学生に接した経験から、恋人同士で、男性が云う「愛しているのなら、いいだろう？」、また、女性の「彼の愛情を得たいために応じる」という「愛の証としてのセックス」のもつ危険性にも触れ、「“愛”が本質的に“相手の幸せのために役立ちたい”感情であるとすれば、これは全く逆の感情であり行動であると言わざるを得ない。」という。

この危険性とは、「性的に親密な関係にあることに起こる身体的、精神的、性的暴力のこと」であり、著者は配偶者によるDVと区別すべく「デートDV」の呼称を使用してるようである。

結構「デートDV」は多く、案外女性は恋愛中なだけに、愛の証と思いがちでDVとは気づいていないとか。

そして、著者は、恋人同士とは、「異なる文化の出合いと融合」であるが故に、「相手との関係、性関係は『納得』『同意』『安心』『安全』『快適』なものとして実感できているかどうか。そして、あえてこの五つを充たしている関係を確かな“愛ある関係”と考えたらどうでしょうか。」と、若者に9章立ての書で問いかけている。

若者にはもちろんのこと、お年頃の我が子に、性に纏わる人間の尊厳、尊重について話したいことがたくさんあってもどう話すか戸惑っている親の方に、「この本をプレゼントする方法もありますよ」ということも含め、本書を推薦します。

また、最近多くなってきているという熟年離婚にならないように、「結婚」ということの本質についても「愛の人間関係学」から触れられているように思いますので、この書籍を紹介します。

(2006年9月20日記)